

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■令和3年度 第4回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・緑地等による都市環境改善効果の定量的評価手法に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、「AI 緑視率調査プログラム」については、実用性を高めるために、緑の種類（高木・中木・低木・下草等や雑草、苔など）の判別能力の強化を行うとともに、緑の質の計測・評価のための機能の拡充やバイオフィリックの評価などの室内の緑視率調査等への拡張に向けた研究を進めて参りたい。また、緑地化の推進を図るため、スマートフォンアプリの公開やこれに併せて行う出前講座の実施など住民や民間への普及にも資する取組を継続して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・ライフステージに即したバリアフリー効果の見える化手法の確立（終了時評価）

評価結果を踏まえ、身体的な衰えなどに対応するための物理的なバリアフリー改修に加え、ヒートショックに対応する断熱改修といった温度のバリアフリーも含めた総合的な改修の検討・提案が可能な手法への展開を今後の視野に入れるとともに、住戸内について適用した手法を援用して住戸外のバリアフリーの評価に繋げるなど、今回の研究で獲得した成果の有効性を更に上げられるよう研究を進めて参りたい。

その際には、評価における感覚機能や認知機能の取り扱い方や、今回は積極的な身体活動量を評価したため取り上げなかった座位行動の位置付けなどに充分留意しつつ、ご指摘頂いた課題に対応できるように努めて参りたい。

・建築物の外装・防水層の長寿命化改修に資する既存RC部材の評価技術の開発（終了時評価）

評価結果を踏まえ、RC造建築物の外装・防水層の改修において、最終的な判断は建物所有者およびマンション等であれば管理組合等の居住者が行わなければならないことを踏まえ、建築の専門家ではない者が理解しやすい技術資料の作成に努めて参りたい。

また、今後の研究のあり方として、実建築物における改修に伴う経年劣化の継続的な調査、ならびに各部位・部材の実情に合わせた劣化調査への対応、複数回の改修に対応した適切な改修工法・材料の検討、ならびに雨水等浸入の原因特定に資する検討についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・建築物の外装材及び屋根の耐風性能向上に資する調査研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、中高層木造の非住宅建築物に対して耐風性能確保に資する知見を適用するとともに、外装材や小屋組の耐力に影響を与えうる材料のばらつきや施工精度等の要因についても考慮することで、成果の更なる展開と普及につながるよう努めて参りたい。

また、既存建築物の屋根ふき材を対象に令和3年度から実施する耐風診断・補強技術評価に関する研究において、既存建築物の耐風性能診断や補強・改修への展開、建築の専門ではない所有者にも配慮した耐風診断の考え方の提示などの検討についても十分留意し、今後も研究を進めて参りたい。

■令和3年度 第5回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・下水道管路を対象とした総合マネジメントに関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、下水道管きよの点検・調査技術等の選定方法についてフローチャートで示すなど、地方公共団体にとってより理解しやすい形で技術資料等を整理し、提供して参りたい。また、GIS や AI 等の活用による下水道施設のマネジメントの効率化及び高度化についても検討して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、総合的かつ実効性のある管きよのマネジメントの方策を提示できるよう研究を進めて参りたい。

・避難・水防に即応可能な情報伝達のための決壊覚知・氾濫実況予測に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、氾濫流量の予測手法については、実河川やそれに近い事象を再現した実験等の情報収集に努め、有効性の検証や更なる改善について検討して参りたい。また情報発信の在り方・手法等については、情報の受け手にとってのわかりやすさや有効性・有用性等の観点を踏まえて、検討を進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・大規模地震に起因する土砂災害のプレアナリシス手法の開発（終了時評価）

評価結果を踏まえ、被害拡大の主要因となる大規模斜面崩壊発生の危険度評価手法の高度化およびその影響度の推定手法の検討を進めて参りたい。また、本研究では対象としなかった他の地盤条件、崩壊発生形態に着目した分析を行うことによって、研究成果の有効性・汎用性を高めるとともに、地方整備局等と連携しながら成果の活用、成果の活用方法に応じた研究を進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・洗掘の被害を受ける可能性が高い道路橋の抽出と改造マニュアルの開発（終了時評価）

評価結果を踏まえ、台風等による洗掘や流失被害を受ける危険性の高い橋梁に対する対策方法について、管理者が実務で活用しやすいようなマニュアルに知見を整理していけるよう努めて参りたい。

また、洗掘や流失被害の影響要因としての、上下流側での護岸工事等による河川流路の変化や、河川材料の特性、外力としての流木などについても、ご指摘いただいたご意見を参考に、今後の研究のとりまとめに向けて検討を進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和3年度 第6回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・大規模地震時の港湾施設の即時被害推定手法に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、現場で直ぐに活用できる研究成果については、関係部署や機関と連携し、研究所資料や現場向けの解説書を早期に整備し、初動対応への活用方法も含めて成果を広く普及させる取り組みを進めて参りたい。また、新規性のある方法論の提案部分については、今後、査読付き論文への投稿を行い、当該専門分野の第三者評価を受け、研究のブラッシュアップを図って参りたい。

また、即時被害推定手法については、他の説明変数を統計モデルに組み入れるなど推定手法を工夫することで、被災の程度や構造形式ごとの被災の評価なども行えるように、その他ご指摘頂いた事項も踏まえて、さらに研究を継続して参りたい。